

【経済学部 ディグリー・ポリシー】

岡山大学経済学部は、学部の教育理念と養成する人材像に基づき、所定の期間在学し、定める授業科目を履修して所定の単位を修得した学生に対し、以下の能力を身につけたものと認定し、学士(経済学)の学位を授与する。

人間性に富む幅広い教養【教養1】

持続可能な開発目標(SDGs)が標榜する多様性と包摂性のある社会実現のために、一人の社会人として、人間と社会、自然と生命に関する諸課題に対して、主体的に関わっていくことができる豊かな人間性に富む幅広い教養を身につけている。

専門性を支える深い教養【教養2】

経済・経営・会計の専門性を活かすために必要な、人間や社会に対する関心と理想を有し、論理的な思考と大局的な判断ができる深い教養を身につけている。

経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力【専門性】

経済・経営・会計の専門知識に基づいて、社会が直面する多様な課題を発見・分析し、解決するための的確な応用力を身につけている。

情報を収集し効果的に活用できる能力【情報力】

必要とされる情報を収集・選択・分析し、その成果を適切かつ効果的に活用・発信する能力を身につけている。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化と共生の時代にふさわしい国際感覚と言語・コミュニケーション能力を修得し、地域や国際社会、諸組織をはじめ、多様な人間・社会関係においてもそこに関与する人々を積極的にリードする行動力を身につけている。

自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力【自己実現力】

将来にわたって主体的・持続的に学ぶ姿勢を維持し、修得した専門的知識を生かして自己の目標実現に向けて歩み続けることができる能力を身につけている。

【経済学部 カリキュラム・ポリシー】

(1)教育課程の編成:

経済学部は、本学部のディグリー・ポリシーに掲げる学士力(人間性に富む幅広い教養, 専門性を支える深い教養, 経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力, 情報を収集し効果的に活用できる能力, 時代と社会をリードする行動力, 自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力)を養成するために、教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供します。

本学部では、入学から卒業まで一貫した少人数教育と主体的学修重視の方針のもと、学生それぞれの関心や目的に応じた的確に科目履修できるようにカリキュラムを編成しています。

(2)教育・学修方法:

1年次には教養教育科目と専門基礎科目, 2年次からは専門教育科目, 3年次には専門教育科目に加えて高年次教養科目を履修します。専門教育科目は複数の科目群を構成し、それらを選択して履修することで、目的に応じた専門知識や考え方が修得できます。さらに、基礎研究や卒業研究などの演習科目も1年次から4年次にわたって提供され、講義で修得した知識を演習で実践することによって、より深い理解に繋げることができます。

(3)学習成果の評価の方針:

講義科目の学習成果は、科目の特徴に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により評価します。基礎研究や卒業研究は、課題への取り組み状況や成果の発表状況等により総合的に評価します。キャリア教育科目は、レポート・授業での課題等により評価します。

◆人間性を育む幅広い教養〔教養1〕

人間と社会、自然と生命の諸課題に積極的・意欲的に関わっていくことのできる豊かな教養を涵養するために、教養教育科目の卒業要件単位数を適切に定めています。「知的理解」の科目区分に関しては、人文社会・自然科学・生命科学の各科目群から、幅広く履修するように選択必修(クロス履修)を課しています。全学ガイダンスと学部ガイダンス科目「修学の方法」、英語科目を必修とし、他の外国語科目も広く履修できるようにしています。

◆専門性を支える深い教養〔教養2〕

経済・経営・会計の専門性を支える基盤を作るため、1年次に専門基礎科目を提供します。経済学部の教育・研究がカバーする領域は広く、1年次は、各専門分野に共通する専門基礎科目群から幅広く履修することによって、経済・経営・会計全般に関する基礎知識を修得し、2年次からの本格的な専門教育に備えます。

◆経済・経営・会計に関する専門的な分析力と応用力〔専門性〕

(昼間コース)

2年次以降の専門教育科目は、専門知識を体系的かつ多面的に修得できるように5つの専門科目群とアクティブ・ラーニング主体の実践型科目群、外部講師による社会連携型科目群等の合計8つの科目群(ユニット)から構成され、それらを大科目群(モジュール)に従って履修すると専門に応じた学修目標に到達します。同一モジュール内の科目を履修(系統履修)していくと領域内の専門性を高めることができ、複数のモジュールに跨って履修(横断履修)すると専門知識を体系的に広げることができます。具体的なモジュールとして、経済分析モジュール、政策モジュール、国際比較モジュール、組織経営モジュール、会計学モジュールがあります。1年次から履修する基礎研究や、3・4年次で履修する卒業研究などの少人数教育授業では、修得した専門知識に基づいて、多様な社会課題を発見・分析し、解決するための応用力を身につけます。

(夜間主コース)

1年次の専門基礎科目によって経済学・経営学・会計学の基礎知識を体系的に学修した後、2年次以降の専門教育科目および3年次の演習科目を通して、専門性を高めていきます。意欲のある学生は1年次から専門教育を受けることができるように「テーマ学修」の制度を設けています。さらに2021年度からは法学部夜間主コースと共同で地域人材育成プログラムを立ち上げ、両学部の一定数の専門教育科目を共通専門科目と位置づけた教育プログラムを編成しています。

夜間主コースは2コース制をとっており、総合学修コースは経済・経営・会計分野の幅広い知識と専門性の修得を目指し、実践力強化コースは経済・経営・会計分野の専門性と法学分野の専門性の修得によって実践力強化を目指せるように、卒業要件を設定しています。

◆情報を収集し効果的に活用できる能力〔情報力〕

情報やデータを用いて経済・経営・会計の分析ができるように、教養教育科目「数理・データサイエンスの基礎」(夜間主コースは「情報処理入門」)を必修とし、関連する発展科目を2年次の専門教育で提供します。3年次からの演習科目や卒業論文では、収集・分析した情報を適切かつ効果的に活用するためのトレーニングを積むことができます。

◆時代と社会をリードする行動力〔行動力〕

世界のさまざまな国や地域の経済・経営を取り上げる多くの専門教育科目が、国際感覚の育成に役立ちます。アクティブ・ラーニングをベースとした「実践コミュニケーション論」をはじめ、社会や組織の在り方を考える専門教育によって、コミュニケーションと共生に必要な能力の獲得をめざします。演習等の少人数・双方向型の科目は、実践教育の場を提供します。実践型英語科目としては「各国経済・ビジネス事情 in English 1・2」等が専門教育科目として提供されます。海外の大学との間に各種交換留学制度もあり、留学先の修得単位を互換認定することができます。「海外特別演習」では、短期の語学研修や海外派遣のプログラムを複数提供しています。

◆自己実現に向けて専門的知識を生かし目標を追求する力〔自己実現力〕

経済学部では、将来にわたって主体的・持続的に学ぶ姿勢を維持し、修得した専門知識を生かして、自己の目標実現に向けて歩み続けることができるように、複数のキャリア教育科目を提供しています。学部ガイダンス科目「修学の方法」では、卒業後の人生設計も考えます。「就業体験実習」(インターンシップ)も、経済学部が企業や官公庁と協力して提供す

るキャリア教育科目です。また、外部講師による複数の特殊講義科目は、社会で活躍するリーダーの気概と識見に直接触れることができ、仕事を通じた自己実現への意欲を高める機会となっています。

◆その他

経済学部では、教員が各学年の学生を数名ずつ担当して勉学や学生生活の状況を把握し、履修や進路等の相談に応じる指導教員制を敷いており、キャリア教育委員会や学生支援委員会がこれをバックアップしています。

【経済学部 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

経済学・経営学・会計学の専門知識と分析力を身につけるための講義科目に加え、アクティブ・ラーニング(AL;学生自ら積極的に参加する授業形態)を中心とする演習・研究等の少人数・双方向型科目群が用意されています。これらの特色ある教育内容により、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成しています。

経済学部には昼間コースと夜間主コースがあり、それぞれのコースに特色を持ったカリキュラムが用意されています。

求める人材

経済学部は、以下のような学生がそれぞれの個性を生かしながら学び、将来の進路・目標を考えてゆくことを期待します。

1. 経済問題・社会問題・持続可能な社会の実現に関心がある人
2. 論理的に考えること、もしくは数学を用いた分析が好きな人
3. 発言や行動が積極的で、民間企業、官公庁、NGOやNPO等の組織の中でリーダー的な役割を果たしたいと望む人
4. 英語をはじめとした外国語を駆使して、国際的な舞台で活躍したいと希望する人
5. 弱者にたいする思いやりと社会における公正を大切にして、人々のために働く情熱を持った人
6. 本学部での主体的な学修を通じて、持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共創する能力を身につけることに強い意欲を持つ人

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。

入学者選抜の基本方針

昼間と夜間主の各コースのアドミッション・ポリシーを参照ください。

【経済学部経済学科(昼間コース) アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

経済学・経営学・会計学の専門知識と分析力を身に付けるための講義科目に加え、アクティブ・ラーニング(AL;学生自ら積極的に参加する授業形態)を中心とする基礎研究・卒業研究等の少人数・双方向型科目群が用意されています。

専門教育は、経済学・経営学・会計学の学問分野を分類した5つの専門科目群に、アクティブ・ラーニング主体の実践型科目群、外部講師による社会連携型科目群等を加えた合計8つの科目群(ユニット)から成り、それらの組合せに応じて5つの大科目群(モジュール)が構成されます。同一モジュール内の科目を履修(系統履修)していくと領域内の専門性を高めることができ、複数のモジュールに跨って履修(横断履修)すると専門知識を体系的に広げていくことができます。具体的なモジュールとして、経済分析モジュール、政策モジュール、国際比較モジュール、組織経営モジュール、会計学モジュールがあります。学生は、自分が将来就きたい仕事を早くから意識して、細やかな履修指導を受けつつ、モジュールやユニットを適切に選択し履修することによって、自らの関心や進路に合致した専門的知識・能力を身につけ、それをさらに高め広げていくことができます。これらの特色ある教育内容により、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成しています。

求める人材

経済学部は、以下のような学生がそれぞれの個性を生かしながら学び、将来の進路・目標を考えてゆくことを期待します。

1. 経済問題・社会問題・持続可能な社会の実現に関心がある人
2. 論理的に考えること、もしくは数学を用いた分析が好きな人
3. 発言や行動が積極的で、民間企業、官公庁、NGOやNPO等の組織の中でリーダー的な役割を果たしたいと望む人
4. 英語をはじめとした外国語を駆使して、国際的な舞台で活躍したいと希望する人
5. 弱者にたいする思いやりと社会における公正を大切にして、人々のために働く情熱を持った人
6. 本学部での主体的な学修を通じて、持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共創する能力を身に付けることに強い意欲を持つ人

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜（前期日程）

5～6教科7～8科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語・数学・外国語の中から2科目を課し、経済学部における学修の基盤となる科目の理解度と応用力を評価します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)募集方法 A

4教科4科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題および持続可能な社会の実現にたいする知識・関心と思考力・表現能力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)募集方法 B

5～6教科7～8科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題および持続可能な社会の実現にたいする知識・関心と思考力・表現能力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験とTOEFLまたはTOEICの成績提出を課し、入学後の学修に必要な基礎学力と日本語能力・英語能力を評価します。また小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに書類審査と面接により、経済・社会問題および持続可能な社会の実現にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

書類審査により、成績評価証明書・自己推薦書・評価書を通して、経済学部における学修に必要な基礎学力と自己表現力・意欲を評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(国語, 数学, 外国語)	☆	調査書
学校推薦型選抜Ⅱ	○	大学入学共通テスト 調査書	◎	面接(口述試験を含む)	○	面接(口述試験を含む) 調査書・推薦書・志望理由書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

【経済学部経済学科(夜間主コース) アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

経済学・経営学・会計学の専門知識と分析力を身につけるための講義科目に加え、アクティブ・ラーニング(AL;学生自ら積極的に参加する授業形態)を中心とする演習等の少人数・双方向型科目群が用意されています。

1年次の専門基礎科目によって経済学・経営学・会計学の基礎知識を体系的に学修した後、2年次以降の専門教育科目および3年次の演習科目を通して、専門性を高めていきます。2021年度からは法学部夜間主コースと共同で地域人材育成プログラムを立ち上げ、両学部の一定数の専門教育科目を共通専門科目と位置づけた教育プログラムを編成しています。

入学してくる学生の学修目的に合わせた履修コース制がとられており、総合学修コースでは経済・経営・会計分野の幅広い知識と専門性の獲得を目指し、実践力強化コースでは経済・経営・会計分野の専門性と法学分野の専門性の修得によって実践力強化を目指します。

さらに意欲を持った学生が専門性や分析力を磨くための制度として、「テーマ学修」ならびに「昼間コース演習履修」の制度が設けられています。これらの特色ある教育内容により、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成しています。

求める人材

経済学部は、以下のような学生がそれぞれの個性を生かしながら学び、将来の進路・目標を考えてゆくことを期待します。

1. 経済問題・社会問題・持続可能な社会の実現に関心がある人
2. 論理的に考えること、もしくは数学を用いた分析が好きな人
3. 発言や行動が積極的で、民間企業、官公庁、NGOやNPO等の組織の中でリーダー的な役割を果たしたいと望む人
4. 英語をはじめとした外国語を駆使して、国際的な舞台で活躍したいと希望する人
5. 弱者にたいする思いやりと社会における公正を大切に、人々のために働く情熱を持った人
6. 本学部での主体的な学修を通じて、持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共創する能力を身につけることに強い意欲を持つ人

とくに夜間主コースでは、経済的な事情などで昼間働きながら勉強を続けたいという意欲のある人、あるいは既に社会で一定の役割を果たしているが、なお自己の可能性を追求し能力を向上させたいと考える人を歓迎します。

なお、入学後の学修のため、入試方法に関わりなく、国語・数学・外国語の各教科科目に関しては、高等学校卒業レベルの基礎学力を有していることが求められます。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

4教科4科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を評価します。個別学力検査では、国語・数学・外国語の中から1科目を課し、経済学部における学修の基盤となる科目の理解度と応用力を評価します。

・学校推薦型選抜推薦Ⅰ(大学入学共通テストを課さないもの)募集方法 A・B

小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに調査書・推薦書・志望理由書および面接により、経済・社会問題および持続可能な社会の実現にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

・社会人選抜

小論文により、経済学部における学修に必要な知識・思考力・読解力・文章表現力を評価します。さらに志望理由書等の書類審査および面接により、経済・社会問題にたいする知識・関心と思考力・コミュニケーション能力・勉学意欲・適性を総合的に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
	一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(国語, 数学, 外国語)	☆
学校推薦型選抜 I	☆	調査書 英語資格・検定試験	◎	小論文 面接(口述試験を含む)	○	面接(口述試験を含む) 調査書・推薦書・志望理由書

(注)◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は, 「主とする資料」であり, それ以外の要素でも活用する場合がある。